

インフルエンザ予防接種

説明文をよく読み、予防接種の必要性、副反応についてよく理解しましょう。
分からないことがあれば、接種前に質問し、十分に納得した上で受けましょう。

●インフルエンザとは

(1) 病気の説明

特 徴	・普通のかぜに比べ、全身症状が強い ・気管支炎や肺炎等を併発し、重症化しやすい ・短期間に幅広い年齢層に流行する
主な感染経路	感染者のくしゃみや咳で出るウイルスを体内に取り込むことにより感染
典型的な症状	・突然の高熱、腰痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感（だるさ） ・呼吸器症状：のどの痛み、咳、鼻水
合併症	肺炎、気管支炎、脳症、ライ症候群、心筋炎、虫垂炎等

(2) ワクチンについて

感染を完全に阻止する効果はありませんが、インフルエンザの発病を一定程度予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関して、一定の効果があるとされています。インフルエンザが流行しやすい12月から翌3月に備え、10月から12月中旬までに接種することをお奨めします。

●副反応

まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん紅斑、掻痒（かゆみ）等があらわれることがあります。

発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、発赤、腫脹、疼痛等を認めることがあります。通常2～3日中に消失します。

重大な副反応として、まれにじんましん、呼吸困難、血管浮腫等があらわれることがあります。そのほとんどは接種後30分以内に生じますが、まれに接種後4時間以内に起こることがあります。その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、ADEM、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作等があらわれたとの報告があります。

●予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかでない人。急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の变化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③ インフルエンザの予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかでない人
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
※上の①～③に入らなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

●接種前に医師とよく相談しなければならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性的の病気で治療を受けている人
- ② 前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましん等アレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人、および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 今までに間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系の病気があると診断されたことがある人
- ⑥ インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人